第5.6回

目録情報とその利用法

(2008.5.9,16)

川崎良孝教授(教育学研究科)

第5回:講義

場所: 吉田南 1 号館 311 号室 出席者: 95 名

配布資料

・講義資料 (A3 用紙 2 枚)

・資料1 (A4 ホチキス止め1部)

前半(13:00-14:00)川崎先生の講義

1. 情報探索技術の必要性

カード目録以外の検索ツールや、EJ などの様々な媒体の文献資料が登場したことにより、資料収集の段階で差がつくようになった。情報探索のノウハウを身につける必要性がある。

2. 目録の歴史

資料群がどのように並べられてきたか、またそれらを探す手立てについて知る。

- 1) 17-18C の書架
 - ・書架の中で大きさ別に棚を定め、その中で受け入れ順に配架
 - ・「書架番号-棚番号-並び順」で本の位置を表現
 - ・著者目録が作成されていた
- 2) 主題分類の出現
 - ・主題からの検索が求められるようになり、大きさの上に主題による分類を設置
 - ・「主題ー書架番号ー棚番号ー並び順」で本の位置を表現 (ex. ボイルストン街図書館の decimal system、建築とドッキングさせた配架分類)
 - ・特定の主題が増えると書架に入りきらない
 - ・書架の位置を本に割り振っていたところに限界が
- 3) 受入順から主題による配列へ
 - ・主題を本に割り振って分類番号をつけ、それに書架での配置を合わせる方法
 - ・本の位置の表現が、書架の位置から主題の分類へと移行
 - ・fixed location から relative location へ
- 3. 総合目録
 - ・目録とは、その図書館が"現実に持っている"図書の情報
 - ·主題別部門制=部屋、蔵書、専門職員、目録
 - ・20世紀に入り、総合目録が作成され出す
 - ・分類、目録作業の集中化が始まる(ex. 名古屋市図書館)
 - 京都大学の蔵書

附属図書館で学内蔵書の総合目録を設置

OPAC の整備により外部からの検索が可能に

・一個の大学のみならず、全国、全世界の分類・目録作業の集中化が現実となりつつある

後半(14:00-14:30) 図書職員の講義(担当:粉川)

次週の演習に備え、基礎的な目録検索の解説を行った。パワーポイントおよび資料1を使用。 また、最後に川崎先生より補足説明あり。

- 1. 参考文献の見方と注意点,
- 2. 目録の種類
- 3. 京大カード目録の利用法
- 4. オンライン目録(OPAC)と電子ジャーナル

KULINE、NACSIS Webcat、Webcat Plus、NDL-OPAC、British Library、Amazon の解説

5. オンライン目録で検索できない資料

第6回:演習

場所: 学術情報メディアセンター南館 203, 204 出席者: 100 名

配布資料

・資料2 (A4 ホチキス止め1部)

・演習問題(A4プリント1枚)

前半 (13:00 - 13:30) 図書館職員による例題解説 (担当:渡邊) 演習における解答の方法を、資料2の例題をもとに説明した。

後半 (13:30 - 14:30) 演習 10 問

◆課題内容

各図書、雑誌を KULINE や NII、その他の図書館の OPAC で検索し、所蔵館(配置場所)、請求記号や電子ジャーナルの有無を書かせる問題を 10 問出題した。KULINE では完全一致検索、前方一致検索のやり方を解説、実践してもらった。また、KULINE にはヒットしないが、電子ジャーナルリストではヒットするもの、KULINE ではヒットせず、NII ではヒットするものなどさまざまなバリエーションのある問題となっている。

7番以降は、京大以外のOPACも使いこなせるよう、他機関のOPAC等で検索を行ってもらった。

- 1-6: KULINE 検索、電子ジャーナル検索、NII 検索
- 7: 国立国会図書館 OPAC 検索
- 8: Webcat-plus 検索(書名の検索)、KULINE 検索
- 9: British Library のOPAC 検索
- 10: amazon.com で検索